

初期対応の遅れ、顧客対応
トップの説明責任
トヨタ・リコール問題の教訓



○インタビュー
民主党国会対策委員長
山岡 賢次
拓殖大学学長
渡辺 利夫

写真の人物
山岡 賢次
渡辺 利夫



ホテルなみの心地よさを実現させた病院のロビー

「すべての認知症は不治の病ではない」という基本理念で
先端機器を完備し治療に専念する
認知症専門病院
「トワーム小江戸病院」

「患者さんのニーズに合わせた病院を」と話すのは
医療法人社団・松弘会理事長の清陽輝久氏。小江戸・
川越（埼玉県）で認知症専門病院「トワーム小江戸
病院」を開院して一年半が経った。「認知症患者を
介護するだけでなく、治療して改善する」ことで、
五百名を超える患者を退院させた同病院の取り組み
とは？



要検査と診断された患者は「三愛病院」で精密な検査を受けられる

MRI（六月導入予定）SAS睡眠時
無呼吸症候群解析装置…日本初といっ
た一般の認知症病院では見かけない機
器が完備。ドクセラピーや東邦音楽
大学で提唱した音楽療法など、認知症に
対する治療法も多岐にわたる。医療ス
タッフは医師十八名、看護師六十名、
介護助手七十名、他、医療事務員も含
めて総勢約百九十人体制となっている
が、特記すべきは通常、認知症病院で
は見られない理学療法士がトワーム小
江戸病院では専ら退院を前提として
いるため、石巻市退院を前提として

室にも歩行訓練のための機器がそろっ
ている。
現在、松弘会は日本医療機能評価機
構認定、救急病院の二愛病院と、さい
たまガン・マイアフェセンターを核とし
て、超高齢化社会に対応すべく、介護
老人保健施設「トワーム東上」トワ
ーム指原、介護付有料老人ホーム「ト
ワームみずほ白」を展開。
**すべての認知症が
良くならないわけ
ではない**
「すべての認知症が治らない病気で
はない」。これが三十余年、医
師として認知症に向き合ってきた清
陽氏の理念だ。身近な例として、認
知症を患っていた養父の母親が回
復したこともそれを裏付けている。

脳血管性認知症で開院時から入院
していた母親が常々女学生時代の話
をしきりにしていたことから回想療
法を試み、旧友からのメッセージを
撮影してビデオレターとしてみせた
ところ、今まで無表情だった母親が
昔の記憶を甦らせ、見る見るうちに
笑顔が戻ってきたのである。
このようにバラエティに富んだ治
療法が患者の症状に合わせて施され

ているが、施設自体にもくつろぎと
安らぎを追求すべく工夫がなされて
いる。病院の建設費や設備費などに
は合計22億円を充て、院内にシャン
デリアや高級家具などを配し、ホテ
ル並みの心地よさを実現させ、患者
のストレスを軽減。病院のロビーも
天井を吹き抜けにして患者の家族が
安心してご家族をあずけられる温か
い雰囲気をつくっている。
開院から〇九年までの一年半の
間で、入院総数六百九十八名。その
うち退院総数五百七十七名と、とも
すればホスピス（死期に近い病人に延
命処置を行わず、精神的援助をする
医療施設）化している認知症病院が
多い中では、異例中の異例といえる。
清陽氏は次のように語る。「長い間、
三愛病院で診ていた患者さんが認知
症を発症してしまつと、その患者さん
は介護施設に移され、患者さんと
病院とのつながりが切れてしまいま
す。そのため、必要な治療を受けら
れないまま亡くなってしまつという
現状がありました。これを解消し、
最後まで患者さんの治療に当たる。
これが我が医療です」
そして同氏の理念を具現化する上

「すべての認知症は不治の病ではない」という基本理念で 先端機器を完備し治療に専念する 認知症専門病院 「トワーム小江戸病院」



わたよう・てるひさ
1976年東京大学医学部卒業
78年まで同大学院整形外科
外科で勤務。日本産科センター
一病科、慶子中央病院勤務
を経て、85年に三愛病院設
立。院長に就任。総合診療科、
整形外科を創設。97年度以来
医療法人社団松弘会理事長に就任。
日本脳科科学会脳科
認定医、健康スポーツ指導医、
身体障害者認定医。

マルチスライスカットなど二般の
認知症病院にはない機器を完備
「医療の基本は、治すということ。
そのためには最先端の診断設備が必要
なのです」。清陽氏は医療の原点
をこう語る。
「世に小京都は数あれど、小江戸は川
越ばかりなり」。松平信綱や柳沢
吉保といった江戸幕府の重臣や親藩が
藩主を務めた川越藩の城下町・川越
この地に認知症治療で実績を挙げる専
門病院がある。
埼玉県さいたま市桜区で「三愛病院
（百二十六床）」を経営している松弘会
が立ち上げた「トワーム小江戸病院（二
百床）」は、二〇〇八年六月一日に開
院した同病院は入院・外来・重症認知
症デイケアなどの医療を行う。
通常、認知症患者はグループホーム
などの介護施設で対応することが多
い。一方で、身体疾患を併発した医療
必要度の高い認知症患者は介護施設で
は対応が難しい。また、精神科病院は、
身体疾患の診療体制が総合病院に比べ
て整っていないところもある。
しかしトワーム小江戸病院では二
十四時間、三百六十五日、患者さんの

で、急性期病院である三愛病院と介
護老人保健施設「トワーム指原」ト
ワーム能登「トワームみずほ白」、
そして「トワーム小江戸病院」のタ
イプの連携医療施設がそろっている
こと、そしてその医療連携が密であ
ることが非常に大きな強みとなっ
ている。
介護医療が盛げにつながらず、職
員の負担も大きいと言われる中で、
医療の原点を共有し、新たな仕組み
で認知症患者を治療するトワーム小
江戸病院の取り組みが目玉が集まる。

診断から治療まで一貫した診療体制
が整備されている」。清陽氏。先端医
療機器が完備され、合併症の迅速かつ
適切な検査・治療の手術が可能なの
である。
マルチスライスカット、キセソニウム、
外科用イメージ（CT、アーム・テレビレ
ントゲン）、超音波診断装置、消化器
内視鏡検査器（経鼻内視鏡胃カメラ）、
カプセル内視鏡、PEG内視鏡、ERC
P、生化学自動分析装置、人工呼吸機、
トレッドミル、大腸ファイバー、気管
支ファイバー、高気圧酸素治療装置、



患者の尊厳を重視し、愛情込めた医療の提供を目指す「トワーム小江戸病院」